

国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会

第7回会議議事要旨（案）

1 日 時：平成27年11月26日（木）14:58～16:20

2 場 所：国立感染症研究所村山庁舎管理棟2階第一会議室

3 出欠状況：出席22名 欠席1名

4 議 題

（1）村山庁舎における安全対策等について

（2）その他

5 資 料

資料1：施設及び施設周辺の安全対策や災害・事故対策及び避難対応の強化について

資料2：国立感染症研究所村山庁舎における地域との交流（前回の協議会以降）

6 議事概要

（○：質問・意見等 ●：回答・連絡等）

○ BSL4施設から出る排気について、そこにウイルスがないかどうか確認方法の検討状況を教えてほしい。

● 化学物質、特にホルマリンのBSL4施設外への排出について、現在、確認方法をどうするのか、専門の業者をどう選定するのかといった検討を行っておりできるだけ早い時期に実施したい。

BSL4施設外へ病原体が排出されているのかについては、海外のBSL4施設でどのような方法で評価しているのかアンケート調査しているが、現在のところヨーロッパ、アメリカ、中国の施設もこのような検査は実施しておらず、海外での検査方法を導入できないため、どのような方法を用いて実施するか検討している。

○ HEPAフィルターの専門家によると、二重にしてもウイルスは0.03%外に漏れ完全なフィルターはあり得ないので、その辺は慎重に検討していい方法を見つけてほしい。

何か事故や大事件が起きたときに、正門以外にもう一カ所ぐらゐは出口を確保することが必要ではないか。

住民への情報伝達として、この施設にスピーカーを配置するなどして、独自の広報ツールを持つべきではないか。

外国の事例で炭疽菌等がテロ組織に渡り政府の要人へ送りつけたりすることがあるようだが、大事なものが絶対に持ち出されないような体制になっているのか。

- 関係機関による検討会でも複数の避難路を確保することが必要ではないか、もう一方、例えば垂直、南北方向の通路が必要ではないかという議論が出ている。
- 伝達方法や連絡手段、避難が必要となった場合のスピーカーの活用について、実際のスピーカーの音量や夜間の伝達方法に関して各自治会等の意見を伺いたいことなど、以下の点を説明
 - ・万が一想定される災害・事故での連絡体制（平日、休日、夜間）について、検討会で議論していること。
 - ・その際は、感染研独自ではなく武蔵村山市と連動して円滑に進めること。事象の大小にかかわらず、協議会で説明・報告すること。
 - ・感染研のホームページ等も活用していくこと。
 - ・避難が必要な場合、どのような対応が必要か議論していること。
 - ・伝達手段について、市の防災行政無線の活用や感染研独自の屋外放送設備の設置についても検討していること。
 - ・感染研の相談窓口の活用など幅広い観点から議論を進めており、通報を受ける住民の方々の意見も聞いて参考としたいこと。
- 現状、役所との連絡体制として防災無線の他、ファクスによる不審者情報、メールによる災害情報が入ってくる。
- 防災無線を有効に使うことがベストと思う。
- 小学校では緊急時・非常時にメール配信システムを使って保護者へ連絡しているが、メールが届かない家庭へは個別に電話している。
- 特別支援学校もメール配信システムを使っており、緊急時は学校から各家庭にメール配信も可能であり、職員の携帯電話から全部の教職員、子供たちへの配信も可能である。
- 検体の持ち出しを防止する対策として、以下の点を説明
 - ・研究者の資質やその経験を裏づけできるような教育を継続して行う。
 - ・実際にBSL4施設で作業を行う研究者は健康診断の中で精神的な状況等についても専門の診察を受けて、心の健康状態も含めた管理を行う。
 - ・BSL4施設にアクセスできるスタッフを制限する。
 - ・BSL4施設での作業は必ず2名以上のスタッフで行い逐一記録する。
 - ・BSL4施設で行われた作業によりどれだけの病原体を使い、どれだけの病原体が増えたか、研究者自らが記録を残すとともに外部評価委員会や厚生労働省の所轄の方々に定期的にその状況についても管理を受ける。
 - ・実際に病原体がある場所は鍵を掛け、複数名でアクセスする。
- 性悪説を踏まえて、病原体の持ち出しについて身体検査を行っているのか。
- 感染研は性悪説も踏まえ、さらに安全対策の強化が必要と考えている。

- 市の行政無線はデジタル方式に変えたことにより音声クリアとなった。また、市全域だけでなくピンポイントに音声を流すことも出来、決まった放送内容であれば録音を流すことも可能である。
- 感染研の周りにはスピーカーが少なく、事故が起こったときに防災無線がどこまで使えるか疑問である。
- 一般公開のポスターを自治会の掲示板に掲示する。
- BSL4施設から病原体が漏れた場合に近隣がとらなければならない対応があれば教えてほしい。
- BSL4施設で用いられる可能性の病原体は直接接触して、それが体内に入らない限り感染しないため、仮に病原体が漏れても周辺の方々に避難をお願いすることはない。
- 検査した人が潜伏期間内に38度に達しない発熱があった場合にどう対応するかという内規等の状況を聞かせて下さい。
- 何らかの発熱があり調子が悪くなってきた場合は、疑似患者の対応と合わせて検査も実施する。ただし、BSL4施設の中で取り扱う病原体は潜伏期間中にほかの人へ感染させるリスクは極めて低い。
- 症状が不顕性感染の状況では、すぐに感染が起こることはあり得ない。
- 37.5度の発熱が出た場合、顕性感染になるがそのときにどう処置するのか、その辺の規定を伺いたい。
- 規定では感染事故等が考えられる事態となった場合、公用車を使って決まった病院へ搬送し診察を受け、場合によっては入院をする。
- 空気感染をするMERS、SARS、鳥インフルエンザのレベル3以下についても、十分なセキュリティ対策を考えてもらい、事故が起きたときには積極的に広報し問題が起きそうなら早目に知らせてほしい。
- 会議の議事はこれまで公開していなかったが、協議会の規定を踏まえて個人情報などのプライバシーや防犯関係及び自由な発想の阻害等も考慮した内容で要点等をまとめた議事要旨として本日の第7回協議会から公開する。
- 次回の会議の開催は、検討会のほうで取りまとめている「村山庁舎における安全対策等について」がまとまり次第、日程調整をさせてほしい。

国立感染症研究所村山庁舎施設運営連絡協議会

第8回会議議事要旨（案）

- 1 日 時：平成27年12月10日（木）15:28～16:30
- 2 場 所：国立感染症研究所村山庁舎管理棟2階第一会議室
- 3 出欠状況：出席13名 欠席10名
- 4 議 題
 - (1) 「国立感染症研究所村山庁舎の安全対策、災害・事故対策及び避難対応の強化に関する検討会」中間整理
 - (2) その他
- 5 資 料

資料：「国立感染症村山庁舎の安全対策、災害・事故対策及び避難対応の強化に関する検討会」中間整理

参考資料：感染研市民セミナー（第36回）「インフルエンザ：どこが違う？今シーズンのワクチン」
- 6 議事概要

（○：質問・意見等 ●：回答・連絡等）

 - 公園を明るくすると不良少年が集まりやすく、暗いと不気味な思いがあり、非常に難しく悩んでいる。
 - 防犯灯、カメラをどこにどういうものを整備すればいいのか、市や警察の意見も伺いながら進める。
 - 正面ゲートの警備は厳しいが、協議会の委員は容易に入庁出来る体制を個別に考えてほしい。
 - 8月7日にBSL4施設として指定された後は警察の指導もあり警備を強化している。委員へ身分証明書として交付している入庁証への写真添付は相談した上で対応する。
 - 委員へ交付している入庁証は持ち帰っていただいて構わないので、今後は顔写真が付いていない入庁証でも入庁出来るよう警備員へ周知する。
 - 避難口を正門以外に設置する予定があるのか。
 - 歩行者や車いすが通れる避難路として南北通路を感染研西側に設けることと、消防活動の際に支障をきたさないよう庁舎内の車を雷塚公園へ退避させるための通路を設け

る等、避難口を複数設ける予定。

- 不審者を取り押さえるための刺叉等を入口に見える形で備えてはどうか。
※刺叉（さすまた）：2～3メートルくらいの柄にU字型等の金具がついているもので、侵入者等に対して、相手の首や腕などを地面や壁などに押しつけて相手の動きを封じるための保安用具
- 別紙についてももう少し詳しく教えてほしい。
- 別紙の詳細について、以下の点を説明
 - ・雷塚公園の中に緊急車両が通れるような通路を設けてはどうか。
 - ・感染研の敷地内を通過して雷塚公園に抜ける南北通路を設けてはどうか。
 - ・夜間にそれぞれの避難場所へ安全に避難できるよう街路灯の明るさを確保することと、周辺地域の安全対策のため監視カメラを設けてはどうか。
 - ・隣接する雷塚小、近隣の第七小、第三中といった緊急時に一時避難所等となる場所の安全・安心という観点から、窓枠や扉の改修等の環境改善を行ってはどうか。
 - ・感染研の防災備品を置くところを施設の外に設けてはどうか。
- いつ頃を目途に実施するのか。
- まだ確定したものではないが、できる限り早く実現に向け努力したい。
- 特別支援学校も地域の障害者の方の一時避難所として指定されているので、同様に考えてほしい。
- 別紙の事業が具体的な例として議論に出たことなので、必要があれば相談する。
- 村山庁舎では避難訓練を今までどのくらいの頻度で行っていたのか、今後頻度とか訓練の形態、例えば周辺住民も含めた形での訓練を考えているのか。
- 村山庁舎は年に2回、春と秋にそれぞれ訓練を行っている。今後は中間整理にあるようにテロ対策を盛り込んだ訓練を関係機関の協力を得ながら取り入れていきたい。
- 特別支援学校の児童・生徒はほとんどがスクールバスを利用して通学しているが、入口は感染研の私道を利用した1ヶ所しかない。緊急車両が入ってきたときは出ていく道がないので、いざとなったときに子供たちが学校からバスで出ていく手段を連絡等も含めて考えてほしい。
- 車両がどう動くか訓練の中に含めて実施する必要がある。検討課題とさせてほしい。
- 今後はこの中間整理を基に市と相談しながら警察や消防とも連携して感染研において災害対策を進めていく。また、具体的なことはこの協議会で随時報告していく。
- この会議に東京小児療育病院の関係者も参加すれば、連携という意味では情報がもらえるかと思う。
- 委員としての参加か意見を伺うかは検討課題とさせてほしい。

- 感染研市民セミナー（第36回）「暮らしに役立つ病気の知識」を平成28年2月6日の土曜日に「インフルエンザ：どこが違う？今シーズンのワクチン」というテーマで、インフルエンザウイルス研究センターの小田切センター長を講師として開催する。
BSL4施設のセキュリティー関係の工事として、北側フェンスの取替工事、8号棟の渡り廊下の新設工事等々を年明け1月から実施する予定。
- 11月28日のセミナーはどのくらい集まったのか。
- 11月28日の参加者は23名。
- 次回の会議は来年の3月に開催させていただきたい。